

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2018.10.20 Autumn

No.

60

NEWS



会場ごとにサブテーマを設定し、議論を重ねる

2018年度障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して



Profile

1981年厚生省入省、97年から2年間、障害者雇用対策課で障害者就業・生活支援センター、トライアル雇用、ジョブコーチ事業など現在に続く支援策の立案に関わる。内閣府で障害者権利条約の交渉に関わるほか、国立がん研究センターで障害者雇用を推進。2015年厚生労働省を退職し「医療機関の障害者雇用ネットワーク」を設立。全国土木建築国民健康保険組合専務理事。精神保健福祉士。

「共感の輪」を
広げよう

厚生省の障害者雇用対策課にいた1998年6月、スワンペーカー銀座店の開所式に参列したのが、スワンとお付き合いの始まりです。翌年、王子養護学校の小島靖子先生たちが十条店を立ち上げ、厚生省の職場にも毎週パンが宅配され、数年後には庁舎内にスワンの売店もできたことで、障害のある方の働く姿が中央官庁の職員や来庁者にも身近なものとなりました。内閣府で障害者施策を担当した頃は、「百聞は一見に如かず」と言っては、近くの赤坂店に来客者をお連れする機会も多かったです。

財団理事長の小倉さんとは、セミナーなどでお話しする機会が度々ありました。宅急便事業を巡る行政との戦いから、役人嫌いの強面イメージを想像していましたが、お会いしてみると、とても温かみのある方でした。人を活かすことの大切さをソフトな声に包み、熱く語られる姿に共感しました。

12月のヤマト福祉財団の受賞祝賀会は、小倉さんに共感した懐かしい顔ぶれに再会できる機会でも、毎年楽しみにしています。ヤマト運輸の労働組合の方も多数参加され、全員経営の考えが福祉の分野にも受け継がれているのを感じます。本業の宅配事業でも、障害のある方に様々な働く機会を作られている背景には、こうした社員の皆さんの理解があるのでしょう。最近では、社員のメンタル面も含めた「健康経営」に企業の関心が向けられ、学生もそういう企業を選ぶ時代になりました。障害のある方が活躍できる職場は、社員にとっても働きやすい職場でしょう。

私自身も、3年前に厚生省を退職したのを機に、仕事とは別にライフワークにも取り組もうと考え、「医療機関の障害者雇用ネットワーク」を立ち上げました。医療という専門分野でも、障害のある方の力を発揮できる職域が豊富にあることを、医療関係者や就労支援関係者に知ってもらおうと、ホームページで情報発信しています。障害の特性を踏まえた業務にさえ出会えれば、思いがけない力を発揮されます。そうした姿を見て、ともに喜びを感じられる「共感の輪」が、少しでも社会に広がることを願っています。

CONTENTS

表紙写真

ヤマト運輸労働組合長崎支部の蛭子谷淳一支部執行委員長に、五島うどんの説明をする五島あすなる作業所(長崎県五島市)の利用者・中村力さん。中村さんは、在籍26年の大ベテラン。

会場ごとにサブテーマを設定し、議論を重ねる

03 2018年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して

09 【瀬戸理事長の受賞者訪問02】
第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者・中崎ひとみさん
人の力は大小いろいろ。

互いに支え合う石垣のように強い組織を。

助成先レポートVol.35

12 NPO法人五島あすなる会 五島あすなる作業所(長崎県五島市)
離島に暮らしながら自立する道

14 この街で、一緒に生きていく。障がいのクロネコDM便配達事業
地域とつながり、
地域によこばれる存在へ。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

会場ごとにサブテーマを設定し、議論を重ねる

2018年度障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して

障がいのある方が生きがいを持って働くことができる仕事と職場、そして高い給料の実現へ。本年度も会場ごとにサブテーマを掲げ、福祉施設が抱えるさまざまな問題を講演者と来場者が一緒に考えていきました。

8月末には福岡、東京、札幌、大阪の4会場すべての開催を終了しましたが、新しい企画として10月26日に沖縄会場（沖縄コンベンションセンター）での追加開催を決定。今後3年間、沖縄で障がいのある方の暮らしを支えていくための仕事づくりを、段階的に進めていく計画です。



福岡会場・7月13日(エルガーラホール)

「共に働き共に生きる」障がい者の働く場



東京会場・7月27日(全社協・灘尾ホール)

「生き方・暮らし方の向上を目指して」



札幌会場・8月3日(ACU-A・アスティ45)

就労継続支援A型事業所の未来



大阪会場・8月24日(マイドームおおさか)

「食」で広がる障がい者の仕事づくり





連日の猛暑が続く中、福祉施設関係者以外にも、障がいのある子どもを持つ保護者などさまざまな立場から関心を抱く方たちが来場されました。



「過去を知らずに今後のことは語れない」とNPO 法人日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事の藤井克徳氏



「講演者の活動を参考に、自分の施設でも前向きな取り組みを」と瀬戸理事長

障がいのある方の未来を見つめて

主催者挨拶に立った瀬戸理事長は「これからは、障がいのある方のいまだけではなく、その先の（未来の生活、仕事のあり方）を築き、支えていくことが必要です」と話しました。

時流講座では、きょうされん専務理事の藤井克徳氏が、かつて国内外で行われた障がい者から人間の尊厳を奪おうとした優生思想や座敷牢など、いまなお残る問題点を説明。その上で、すべての人の当然の権利である「ディセントワーク」について講演しました。

「今年4月、民間企業の障がい者の法定雇用率は2・2%に引き上げられましたが、欧米に比べまだ十分とはいえません。現在の日本の障がい者は、人口の約11%とされていますが、難病、発達障害、色弱などを加えると、5〜6人に1人が障がい者となります。すべての障がいのある方を受け入れることができる環境、社会の実現が急務なのです」。

当事者の声に一段と大きな拍手が

講演者には、会場ごとに設けたサブテーマに合わせ、歴代の小倉昌男賞受賞者などを招聘。食品加工工業や菓子製造業、IT業界など分野こそ違いますが、独自の着眼点と工夫で、仕事の拡大や給料増額に実績を上げた取り組みを語っていただきました。

会場から一段と大きな拍手が巻き起こったのは「働く本人からのメッセージ」の発表です。各会場の地元福祉施設で働く9名の利用者さんが登壇。日々どのような気持ちで仕事に励んでいるか、今後の夢や目標などを話していただきました。

続いて藤井氏がコーディネーターとなり、会場ごとのテーマに沿ったシンポジウムを開催。来場者の質問も多く出ました。最後に瀬戸理事長は「当事者の声にどう応えていくか。周りを巻き込み、次のステップへ進んでいきましょう」と呼びかけました。

当事者の声「働く本人からのメッセージ」

福岡会場

(社福)キリスト会奉仕会
恵愛ワークセンター

上田 美由紀さん



小さいころのケーキ屋さんで働く夢が、パン屋さんと言う形で実現しました。いまのお給料は、1ヵ月約6万円。洋服を買ったり、友だちと遊んだり、お母さんに美味しいものを買ってあげたりもできています。

福岡会場

(社福)福岡ひかり福祉会
風ひかり作業所

小倉 誠一さん



9年前、突然倒れ身体の半分が麻痺。真っ暗になった私の気持ちを変えてくれたのが、お客様からの信頼に応えたいと真剣に取り組む仲間の姿です。いまは仕事に、趣味の競歩に意欲的に取り組んでいます。

東京会場

(社福)はる パイ焼き茶房

尾留川 さくらさん



パイ焼き茶房で得たのは、相手の気持ちを考えお話をすれば、自分も理解してもらえること。そして周りに必要とされている喜びです。いますべての経験が、私の人生の素敵な贈り物となっています。

東京会場

フリーランス

鹿久保 芹菜さん



脊髄性筋萎縮症ですが、指1本で操作できるマウスを使い、パソコンで在宅就労しています。いろいろと苦労しましたが、国家資格も取得できました。これからも、自分の可能性を信じ挑戦を続けます。

東京会場

(株)TBSテレビ

長谷川 晴基さん



TBSテレビの契約社員として、モニターである障がい者や支援者の声を制作側に届ける仕事をしています。脊髄性筋萎縮症の私が、普通に仕事に就き、社会人として暮らせていることが夢のようです。

札幌会場

(NPO)札幌障害者活動支援センターライフ
リサイクルプラザ発寒工房

大井 敏彦さん



仕事は、リサイクルする家具の保管庫内の整理、作業場への移動です。ここは障がいの有無に関係なく、共に働き、生きていける場所。周りの助けを借りながら、自分にできることはしっかりやりたいと思います。

札幌会場

(社福)さっぽろひかり福祉会
ひかり工房

岡崎 詩織さん



以前の職場では、怒られてばかりで自信を失っていました。でもパン作りを行うひかり工房では「筋がいい、体力があるね」と誉めてもらえます。いまは、一人暮らしを目標に、後輩の指導も頑張っています。

大阪会場

(NPO)はまゆう作業所

辻 元美さん



生まれつき右手、右足に軽いまひがあります。ここは、人気の切り干し大根をはじめ、1年中大忙し。夫婦で買った家のローン完済までもう少しですが、そのあともずっと農産品加工を続けていきたいですね。

大阪会場

(社福)ひびき福祉会
ハイワークひびき

森出 剛彦さん



ここで働いて18年、いまは菓子づくりを担当しています。いろいろ失敗もしましたが、まだ完璧ではありません。それでも後輩に教えてあげることができるくらいまで、上手になりたいと思っています。

なながあつてもあきらめない利用者さんに寄り添い続ける姿勢

7月13日、最初の開催地・福岡会場のサブテーマは「共に働き共に生きる」障がい者の働く場です。クッキーの製造販売で年間1億3000万円を超えるがんばカンパニーの中崎氏。開所当時は、障がいの存在すら地域の人に疎まれていたと話します。「事業は軌道に乗らず、売上が伸びない年が続きました。財布の中は小銭だけ。利用者さんに逆に気遣ってもらったような苦しい日もありました。それでもあきらめず営業を続け、現在があります。いまでは地域の方の理解も深まり、

うちの田んぼを施設の敷地に使って声もかけていただいています。」(有)ドアーズの柴田氏は、かつて福祉施設で働き、製麺事業で成功を収めました。が、制度や考え方など、福祉の縛りから脱却したいと、ベクトルという異分野で起業しました。

「福祉施設で10万円もらうより、会社に勤めて9万円をもらいたい。そんな利用者さんの声を聞き、選択肢を広げるには自分がやるしかないと思っただけです。現在、年商は約5億円、私が理事長を務める福祉施設や地元の施設にも仕事をお願いしています。企業経営者として、福祉職員として、私は攻め続けます。」

ENDEAVOR EVOLUTIONの松浦氏は、元・少年課の刑事です。ある事件で作業所を訪ねたときに出会った笑顔で働く利用者さんの姿に感激。福祉への転身を決意しました。「福祉施設は、納期を守れないからダメと、取引先に相手にされなくなつた時もありました。そこで、利用者さんの働く意識や技能を高めるステップアップの仕組みを考案。いまでは、うちの利用者さんがいなくなつたら仕事が成立しないと言ってもらえるお客様もいます。給料も約14万円まで支払えるようになりました。」

シンポジウムでは、なながあつてもあきらめず利用者さんに寄り添い続ける3人に共感した会場から、次々と質問の手が挙りました。



福岡会場 エルガーホール

テーマ

「共に働き共に生きる」障がい者の働く場



3人の講師に共通しているのは「自分たちの手で必ずやり遂げてみせる」という強い決意です。

(社福)共生シンフォニー 常務理事
がんばカンパニー
第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

中崎 ひとみ氏

障がいのある方が、地域と共生していくには、私たちが商売を成功させるしかありません。



(有)ドアーズ 代表取締役
(社福)慶光会 理事長
第12回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

柴田 智宏氏

できない言い訳より、どうすればできるかを考え、行動する。そんなリーダーになってほしい。



(NPO)ENDEAVOR EVOLUTION
理事長
第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

松浦 一樹氏

利用者さんのために最後まで責務を果たす。中途半端な気持ちでの支援なら、いますぐやめてほしい。



東京会場 全社協 灘尾ホール

テーマ

「生き方・暮らし方の向上を目指して」

ITツールや仕事の見える化で利用者さんに高い給料と自立を

7月27日へ生き方・暮らし方の向上を目指してをサブテーマに、東京会場で3名の講師がそれぞれの取り組みと成果を話しました。

「ご自身が喉頭ガンで発声機能を失った(社福)ぷろぼの山内氏。東京でIT企業の経営者として活躍されてきた経験を活かし、現在は奈良県で障がい者の働く場の拡大に力を尽くしています。ITやIOTを働く道具として使うことで、障がい者が重い方にも働く機会を創出できます。一般企業のプログラマーと肩を並べて働くことで自信が生まれ、プ

ます」。

(社福)武蔵野千川福祉会の新堂氏は、夢へのかけ橋実践塾の塾長として、視覚的にもわかりやすく働きやすい職場、生産性を上げ給料増額を目指せる事業所づくりを塾生に指導しています。講演では、「ご自身の施設でスキルアップしていく利用者さんの姿を見つめてきた感想としてこんな言葉も、「給料が上がると利用者さんの働く姿勢が変化します。1万円のとときは、簡単に仕事を休んでいた人が、3万円で欠勤が減り、5万円の仕事に対する責任感も、8万円になると、自分の仕事が終わると周りのサポートに動かなく、自ら考え行動するように変わってきました」。

堀込氏は、在宅勤務を可能にするテレワークなどを推進しています。「病気の治療をしながら働ける、障がい者が重くても働ける、そんな働き方改革をICTで支援しています。それには、技術を習得する場、障がいに応じたツール開発、就労してからのサポートなどが必要です。技術は加速度的に進歩しています。支援制度も含め、働きたいと願う人の気持ちに添えて、だれもがバランスよく活用できるようにすることが、これらの課題ですね」。



ITで障がいのある方の働き方改革を進める2人の講師も登壇。

(社福)ぷろぼの 理事長
第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

山内 民興氏

仕事の技能から、社会人としてのスキルまで個別に高めていく“育てる福祉”を目指しています。



(社福)武蔵野千川福祉会 常務理事
第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

新堂 薫氏

給料が上がることで、努力すれば夢がかなうと、次の目標も話してくれるようになりました。



(社福)東京コロニー職能開発室事業所長/
東京都障害者ITサポートセンター センター長
第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

堀込 真理子氏

障がい者が重く市販のマウスやキーボードでは難しい方に、使いやすいツールも開発しています。



A型事業所に向けられる課題と期待

「A型事業所の未来をサブテーマにした札幌会場では、全Aネットの顧問を務める岩田氏が最初に登壇。「一般就労が難しい障がい者に、雇用と福祉にまたがる位置付けとなるA型事業は重要な存在です」と伝えました。

厚生労働省 社会・援護局の服部係長は、「できるだけ地域に出て課題をもらい、次の制度改正に生かしていきます」と話しました。

来場者には、地元の良い事例も学んでほしいと、札幌市障がい者協働事業に参画する3名が報告しました。

「札幌市に合った働く支援モデルをつくろうと、市と交渉し誕生したのが、障がい者協働事業です」と(NPO)札幌障害者活動支援センターライフの石澤専務理事。(NPO)地域生活支援グループ・共働友楽舎ワークショップのアリスの角谷所長は「こちらはタオルなどのシルク印刷が得意ですが、間口を広げ、より多くの方に仕事の機会を創出したい」と報告。区役所内で喫茶店を運営する(NPO)地域生活きたのセンター(ばお)の荒野代表は「いまのままではダメだと思い切って半額キャンペーンも企画。目標の売上達成にみんながアイデアを絞っています」と伝えました。

札幌会場 ACU-A・アスティ 45

テーマ

就労継続支援A型事業所の未来



就労継続支援A型事業所(以下、A型事業所)を取り巻く問題と解決策とは。シンポジウムでは、現場や行政からの報告に対し、さまざまな質問が出ました。

「はたらくNIPPON!計画」A型フォーラムin札幌

～北海道からA型事業所の果たす役割について～

翌8月4日には、全Aネット主催でフォーラムを開催。北海道という地域にA型事業所が根付き、広がっていくために、いまなにをすべきかを、三つの分科会で考えていきました。

「分科会1 / 多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来」では、製パン・製菓事業、IT事業、農業と三つの分野で成果を上げているA型事業所が取り組みを報告。「分科会2 / A型における就労支援を考える～中間的就労の試み…など」では、一般就労へのステップアップとしてA型事業者が果たすべき役割や、中間的就労のあり方などを考えました。「分科会3 / 誰もが、当たり前前に働いて生きていける町へ」では、働きたくても働く場がなかった芽室町でA型事業所を立ち上げた事例をもとに、農福連携から見えてきた雇用の場の創出と地域活性化の道を考えました。

全体ディスカッションでは、三つの分科会を振り返りながら講演者たちと意見を交換。働きがいのある仕事、最賃と保険の保証など、A型事業所のあるべき姿を、北海道という地域性を活かして実現するにはどうしたら良いかを話し合いました。



「社会での合理的配慮が実現するまで、全Aネットは、難しいA型事業所にチャレンジするみなさんを応援します」と、最後に大会宣言で締めくくりました。

「中間的就労分野におけるA型事業の可能性検討事業」研究会座長、全Aネット顧問

岩田 克彦氏

就労に悩む当事者のためにも、制度改善に大きな声を。



厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
障害福祉課 就労支援係 係長

服部 剛氏

悪しきA型事業所やコンサルに惑わされないでほしい。



(NPO)札幌障害者活動
支援センターライフ 専務理事

石澤 利巳氏

印刷専門技術を持つ利用者さんの育成が課題です。



(NPO)地域生活支援グループ
共働友楽舎ワークショップアリス 所長

角谷 宏氏

体調を崩した仲間の仕事を利用者同士でフォロー。



(NPO)地域生活きたの
センターばお 代表

荒野 耕司氏

私の子どもも自閉症。彼らの働く道筋をつくりたい。



大阪会場 マイドームおおさか

テーマ

「食」で広がる障がい者の仕事づくり



各地域の特産物、事業所の看板商品などが並び、今年も大盛況。行列が続くブースがいくつもありません。

大試食会で

商品開発のヒントを得る

8月24日の大阪会場のサブテーマは「食」で広がる障がい者の仕事づくりです。

全国豆腐品評会で金賞を受賞、テレビでも紹介されたはらから豆腐や牛タン加工などを行う(社福)はらから福祉会の武田氏は「36年間追求し続けているのは、障がいの重い人も安心して暮らせる給料を支払うために、どうやって質の高い商品をつくらせていくか。私たちにゴールはありません」と話しました。

夢へのかけ橋実践塾で弁当・配食サービスを指導する楠元氏は、弁

当業界は厳しい競争下にあります。高齢者向け配食サービスなら、福祉施設の強みを活かします。地域の市場を把握し取り組んでください」と講演。

ここで昨年も好評だった大試食会へ。講演者3名の施設も含めた11の事業所が、自慢のオリジナル商品を来場者に振る舞いました。

試食会後の講演で(社福)ひびき福祉会の亀井氏は「かつて福祉施設を支えた下請け仕事は海外へ流れています。これからは、自分たちで商品を考え、つくり、売ることをみなさんがやらなければ、利用者さんの給料を上げることはできないのですか」と伝えました。



大試食会を開始して、あっという間になくなってしまいうほど、人気を集めた商品も。

大試食会に出展した11事業所と商品一覧

法人名/事業所名	出展商品
(社福)聖徳園/ワークメイト聖徳園	酒粕ロールケーキ、フルーツピクルスドリンク
(社福)慶光会/ワークスひるぜん	まさか飯
(社福)一妻会/けいじん舎	熊野牛と北海道男爵いものコロッケ、イノブタコロッケ
(社福)ひびき福祉会/ハイワークひびき	クッキー、マドレーヌ、フィナンシェ
(社福)ひびき福祉会/リープセンターひびき	餃子、春巻き、焼売
(社福)キャンパスの会/給食センターキャンパス	鳥飯、冷製スープ(人参・ごぼう)
(社福)はらから福祉会/蔵王すずしろ	はらから袋豆腐800g、蔵王の絹
(社福)はらから福祉会/えいむ亘理	牛タンスライス、子牛の牛タンスライス
(NPO)Creer / Creer	阿波半田そうめん(鳴門わかめ、すだち添え)、オリジナル塩から揚げ、焼き菓子
(NPO)吉野コスモス会/ういる工房	柿の葉寿司、炙りさんま寿司、鱧の焼き霜揚げ
(NPO)はまゆう作業所/はまゆう作業所	めはり寿司、切り干し大根煮、サラダ

(社福)はらから福祉会 理事長
第3回ヤマト福祉財団賞受賞

武田 元氏

障がいが重いと困難な仕事もありますが、不可能ではありません。求められるのは、私たち職員の努力、知恵、結束力です。



(社福)キャンパスの会 理事長
第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

楠元 洋子氏

地域の食材、資源をしっかりと把握し、活かすこと。私たちが売りたいものではなく、お客様が欲しいものとはなにかを考えていきましょう。



(社福)ひびき福祉会 理事長
第7回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

亀井 勝氏

食品加工は、食べてすぐ評価が出る、勝負の早い仕事。試食で得たヒントをもとに、自信を持って販売できる商品づくりに挑戦してほしい。





人の力は大小いろいろ。 互いに支え合う 石垣のように強い組織を。

「ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞後も目覚ましい活躍を続ける受賞者から、福祉施設支援の新たなヒントを」。厳しい残暑が続く8月27日、瀬戸理事長は滋賀県大津市へ。訪問したのは、琵琶湖の近くでクッキーの製造販売を行う中崎ひとみさんの施設です。

中崎ひとみさんは、2009年度第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者です。当時「福祉施設がクッキーづくりで年商1億円超！」とメディアも取り上げ、全国の福祉関係者がそのノウハウを学びたいと訪れました。そんな中崎さんも最初は、菓子づくりの素人。重い障がいの子どもを抱え奮闘するシングルマザーの一人でした。障がい者団体の事務職、高齢者介護のヘルパー、無認可作業所のボランティア・職員などの経験を経て、2000年に立ち上げたのが「がんばりカンパニー」です。

現在、事業所で働く利用者さんは48名。クッキー製造の様子を見学したあと、瀬戸理事長は、中崎さんの山あり谷ありの道のり、どん底に落ちてから這い上がった原動力はなにか、また今後の展望も伺いました。

MAP

DATA

社会福祉法人共生シンフォニー 「がんばりカンパニー」 (滋賀県大津市大將軍2-31-5)
 事業内容 / 焼き菓子製造業 就労継続支援A型 / 48名 <http://gambatta.net>



どうすれば一人でも多くの利用者さんがクッキーづくりに携わり、高品質で効率的な製造を行えるか。クッキーづくりの内容を見直し、型を抜く人、粉をふる人など、各人ができる得意な仕事を、工程分けて創り出しました。

がんばカンパニーでは、オリジナルクッキーとOEM商品の2本柱で、売上1億円以上に。

地道な活動を積み重ね地域の方に障がい者施設の存在を認めてもらう

瀬戸理事長(以下、理事長) なかなか活気に満ちた職場でした。売上2億円を超えていたときもあつたそうですね。

中崎ひとみさん(以下、中崎) いまは、1億3000万円くらいです。6年前、1億円ちょっとに落ちましたが、持ち直しています。

理事長 それでも凄いです。1986年に無認可の作業所にボランティアで参加されていたと聞きましたが、そのときからクッキーを作っていたのですか？

中崎 当時はまだです。お菓子やコーヒー、お茶を仕入れて販売していました。そのときに働いていた知的障がいのある方が、毎日「今日も一日頑張った」と日記に書いていたのを見て

「今日も一日がんばった本舗」という事業所名にしたのです。当時は、そんな名前は珍しかったので、ちょっと面白いかなと。

理事長 「商いでノーマライゼーション」というキャッチフレーズはそのときから？

中崎 そうですね。しかし、障がい者が働くこととはもちろん、障がい者施設が地域の一員として認められるまでは時間がかかりました。

理事長 地域の方の理解を得るために、福祉施設はみんな苦労されていますね。

中崎 地域の行事にボランティアとして参加していました。障がいを抱えていても、地域に公表していない方もいらっしゃるのです。そういう方の子どもの相談にも乗りました。また「生活保護を受けている方で仕事が續かない人がいる、雇って欲しくないか」との相談も。こうした地道な活動を続け、地域の信頼を少しずつ得ていくことができたのです。

理事長 それから売上が伸びていった？

中崎 いえまだまったく売れません。やっぱり商売を知らないようではダメですね。

理事長 商品開発や販売戦略ということ？

中崎 それ以前の問題です。とにかく商売とはなにかを勉強し、きちんと取引していただける体制を整えていきました。その成果が少しずつ実りはじめ、信用が上がり、利益率も向上。職員も雇えるし、みんなの動きも気持ちもよくなり、どんどん調子に乗ってきて、売上は1000万円から3800万円くらいにグッと伸びました。そこでより上を目指そうと、最初のクッキー工房を建て、クッキー製造を開始。利用者さん一人ひとりと雇用契約も結びました。でも突然、状況が一変したのです。

給料遅配で苦しんだとき 身にしみた利用者さんのやさしさ

理事長 なにがあつたのですか？

中崎 バブル崩壊と、先を見越して計画的な経営をしてこなかったツケがまわってきました。たくさん給料をもらえると、みんながうちに入りたがり、それを拒めず人件費が膨れ上がったのです。誰もがクッキーを作ったり売ったりできるわけではなく、なにもできない人もいます。それでも給料を払わないといけないので、人件費で資金ショートがはじまりました。

理事長 まだ自立支援法ができていないころに、雇用契約を結んでいたのですか？

中崎 そうです。
理事長 それじゃあ人件費倒れる可能性はありますか？

中崎 給料が遅配ははじめ、職員のほとんどがアルバイトで生活を支えることに。利用者さんは、障害者年金が入るので私たちよりもお金のある人もいますから、健常者でも子ど



「クッキーは、お母さんとして子どものおやつに焼いていた程度。ほとんど独学でした」と中崎さん



「障がいのある方が働くことに偏見を持つ人や福祉施設もあるけど、働くことは、生き甲斐になる大切なことです」と瀬戸理事長

もさんなど抱えている人を先に支払うようにもしました。「今月はいくらあればいける?」「5万円あったら10日は大丈夫」「じゃあ5万円ずつとか、障がいのあるなしに関わらず、みんなと話をしやり繰りをしていました。」

理事長 人の家計簿までひっくり返して、みんなでも乗り切って、いまがあるよ。

くれる利用者さんも。みんな親戚みたいな感じで支え合って生きてきた感じですよ。
それぞれに適した仕事の創出と頑張りに応じた給料の支給へ
理事長 そんなとん底から、よくももう一度這い上がってこられましたね。なにか考え方の変化や仕組みづくりなどを行ったのですか?
中崎 大きくは、三つです。当時は、障がい者の権利などを訴えながら、販売をしていました。アレコレ文句を言ったあとで、クッキーを買ってくださいと頼んでも、だれも買ってはくれませんよね。「今日も一日がんばった本舗」

を分割して、クッキーを製造販売する「がんばカンパニー」と障がい者の運動を行う「まちかどプロジェクト」のグループに分けました。これで取引先と話をする際に矛盾がなくなり、商売がかなり楽になりました。1999年のことです。
二つ目は先ほどもお話しした人件費です。クッキー作りや販売をできない人でも、やれることはある、その人に適した得意な仕事に就けるように、カフェ、農業、給食、宅配弁当など、事業所を増やしていったのです。これで、それぞれの事業所で、売上とその人の頑張りに合った給料を支払えるようになりました。
機械化やパティシエの雇用など菓子製造販売で成功する先駆けに
理事長 もう一つは?
中崎 人のつながりです。以前から、いろいろな企業との交流の場に顔を出しては、なにかな仕事をと訴え続けてきました。それを食品業界以外の社長さんが思い出してくれて、その方の友人からOEMの声がかかりました。
理事長 人とのつながりを活かせることは、できる経営者の条件だと思います。OEMは、負担が少なくて売上也安定できてよいのですが、要望に応えるだけの技術と生産力がなければならぬし、納期も厳しいですね。
中崎 反対する職員もいましたが、一種類を大量に作るなら私たちにもできる、パティシエもいれて、みんなで挑戦してみようという踏み出しました。

つぱり自分たちでやろうと。製造ラインを工夫し、機械も導入し体制を整えて、売上1億円を超えるようになりました。
理事長 専門家であるパティシエを雇い技術や商品力を高め、機械化やライン化で生産性を上げる。中崎さんがやってきたことは、いまでは食品製造で成功を収めるためのスタンダードになっていますね。今後の目標などはありますか?
中崎 演劇で社会に自分たちのことをアピールする場、知的や発達障がいの子どもたちに勉強を教える場、高齢者のデイケアセンター、障がい者だけでなく、高齢者や引きこもり、シングルマザーなども雇用し、支え合える場もつくって来ました。でも滋賀県には、重度心身障害者施設が足りないという気がしたのです。重度の子どもたちは、学校を卒業後、行き場がない。これをなんとかしたいと考えています。
理事長 また挑戦をはじめるとはですね。
中崎 重心はやったことがないので挑戦です。どんなに障がいも重くても、高齢になっても食べ物と住むところを支援できる体制を整えることができれば、あとは若い人に託そうと思っています。ただこれは、自分一人ではなく、みんなに助けてもらってできること。「自分が自分が」だと組織は決壊してしまいます。例えば、大きな石の隙間を小さい石が巧みに組み合わせ、大きな石の隙間を小さい石が巧みに組み合わせ、^{※の積み方}の積み方のような集団です。
理事長 城の石垣は、大きい石や小さい石を巧みに組み合わせ、より強くなる。
中崎 はい。一枚のコンクリートよりも強さを増す。人の力は大小いろいろでも、みんな必要な存在ですね。
理事長 あとは活躍の場をうまくつくってあげることです。次の挑戦も頑張ってください。
中崎 はい、ありがとうございます。

※野面積み：石の形を加工せず、自然の石をそのまま積み上げ石垣を築く方法

離島に暮らしながら自立する道

九州は長崎の西方約100km、大小152の島々からなる五島列島。その玄関口である福江島に、長崎県内でもトップクラスの給料を支給する作業所があります。その平均給料は月額6万円をすでに達成。さらなる成長に向けて準備を進めている「五島あすなろ作業所」に伺いました。

Data

NPO法人 五島あすなろ会
五島あすなろ作業所
長崎県五島市



4

5



3



①くっついた麺を外す「麺分け」。この状態でゆっくりと一晩かけて乾燥させる。②福江島でも数少ない五島手延うどんの専門店「ばらもん亭」。郷土風からの命名だが、その語源「ばらか」には島の言葉で「活発な、元気のいい」の意味がある。③練られた生地は何度も、何度もよりをかけて細い麺の形に。この過程で島特産の精油が塗られる。④理事長の土岐寛志さん。⑤現理事長の父で、前理事長の土岐達志さん。⑥長い竹箸をつかって行う「延ばし」の工程。⑦乾燥させ裁断した麺は、研磨機にセットされ20分ほど揺らしながら研磨される。⑧シュリンク包装機を利用することで、包装紙で包む工程を廃止。作業の軽減と商品の安全性向上を図った。⑨五島手延うどんの食べ方で有名な地獄炊き

手間暇かかる伝統の手延べうどん

「讃岐、福庭は決まっています。3つ目はいくつか名前が挙がるのですが、ここは福江島なので、五島うどんを最後に入れてさせてもらって…」
そう笑うのは五島あすなろ作業所の理事長・土岐寛志さん。

ここ数年、全国的に知られるようになり、日本三大うどんに数えられることも多い五島うどんは、手延べでつくられ細麺ながらコシが強いのが特徴。とくに上五島が本場です。

昨年12月、島内に五島うどん専門の飲食店「ばらもん亭」をオープンさせた五島あすなろ作業所は、ステップアップ助成金167万円を活用してこの夏、麺研磨機とシュリンク包装機を整備しました。

「これから先、うちが手がけている事業の中で、伸びていくものはうどん製造事業だろうと。しかし手打ちと違い、手延べうどんは工程も多く、時間も手間もかかります。そこで生産能力の向上や高齢化する利用者さんたちのことを考えると、作業内容の簡易化・効率化が重要な課題だったんです」。麺研磨機は、乾燥麺の表面のバリやゴミを取り除き、喉ごしをぐっと良くしま

す。また、1本1本行っていた目視検査の負担軽減も期待できます。シュリンク包装機はギフト商品の梱包に役立てる計画です。

島内だけを見ていたら限界に

五島あすなろ作業所ではうどん事業以外にもへ市指定ゴミ袋の製袋事業へ、墓参り代行事業などに取り組んでいます。しかし、人口減少が見込まれている島の将来を考えると、いずれ事業収入の頭打ち・減少は避けられません。

幸い、五島うどんは注目度がアップしているさなか。今年7月には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産にも登録され、構成資産を擁する五島列島を訪れる観光客の姿もぐっと増えました。島内のみを対象にした事業には限界がありますが、追い風が吹く今、うどん製品なら島外に打って出ることもできます。

五島あすなろ作業所は2001年の発足ですが源を辿れば、現理事長の父・達志さんが1992年に立ち上げた食品会社に遡ります。達志さんは若いころ、業務上の事故で足を失いました。障がいのある人たちの力になるべく、やがて自ら行動を起こした達志さんが目を付けたのが五島うどんの製造です。もちろん旧自立支援法





五島あすなる作業所が手がける「手延スパゲッティ」、「平打ちのほごも麺」、「五島手延うどん」、「磯乾麺」



労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 30

ヤマト運輸労働組合
長崎支部執行委員長
蛭子谷 淳一さん



社会のためにできることをする。 会社としても人としても。

手延べうどんって、作るのにこんなに大変だとは思いませんでした。そうめんに似た工程なのだろうとは思っていましたが、力仕事もあるし、本当に感心しました。

今年、長崎からは3件の助成申請が採用されました。いずれも主管支店長と訪問させていただきましたが、こうした社会貢献活動は、会社としても、人としてもやはり大切なことで、続けていくべきだと痛感しました。

長崎支部では夏のカンパとは別に、独自に冬もカンパを実施。毎年4月に運輸労連として、長崎県庁にお届けしています。できるだけ多くの善意が集まるよう、今日、見聞きしたことを広く伝えていかなければと思います。



— 認証取得の理由を理事長はこう語ります。
「一般の方が作業所製品に持つ『それなりの品質なんですよ』というイメージを払拭したかったですし、利用者さんたちにも製品や自分

夢や目標に向かうためにも

が施行される以前のこと、障がい者の働く場を」と考えて、株式会社で起業しました。当時、漁業以外に目立った産業のなかった五島は、障がいのある方が働くにはたいへん厳しい環境だったのです。
現在では、より多くの障がい者を雇用するために株式会社を作業所に解体吸収。県の定める「食品衛生管理」な「HACCP」を、五島市でもっとも早く取得するなど、熱心な営業活動で障がい者の自立を応援しています。

たちの仕事に自信を持ってもらいたかったんです」として、こうも続けます。
「お金は大事です。経済的基盤ができればグループホームで先を見据えた生活をしていくこともできます。うちを利用することで生活保護から抜け出せた人もいます。ただ、矛盾するように聞こえるかもしれませんが、仕事は単にお金を稼ぐだけではなく、自分が社会の一員として認められる、その存在証明でもあるのだと思っています」
まずは経済的な基盤を整えたら、利用者さんには本当にやりたいことにどんどんチャレンジしていつてもらいたい」と理事長。昨年開店した「ばらもん亭」の名は、古くから伝わる郷土風「バラモン風」から採りました。利用者さんが目標に向かって大空を昇っていく……。そんな日はきつともうすぐです。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

地域とつながり、 地域によるこぼれる存在へ。

愛知県名古屋市中川区。かつて漁師町として栄えた静かなこのまちに、社会福祉法人さくらんぼの会多機能型「さくらんぼ」があります。クロネコDM便を始めてもう14年。今日も3人のメイトさんが自転車と徒歩で配達しています。

名古屋市の西、金城ふとうに近い中川区下之一色町。庄内川と新川の2つの川から海の香りを感じる、静かなまちです。ここで、平成16年にクロネコメール便(のちにDM便)

配達事業を始めたのが、「さくらんぼ」。15年目となる現在、メイトさんは3名。10区画に分けたエリアを、1人は自転車、2人は職員と徒歩で配達しています。

まちの人がすすめてくれた
クロネコDM便配達

「そもそも、「さくらんぼ」でDM



まちのシンボル、魚市場の前で自転車を停める湯浅和洋さん。この辺りは、新しい住宅が増えているエリア。仕事の中でまちの人と会話すること、まちの変化をチェックすることを心がけているとか。



上/DM便の仕分け作業のすべてを一人で行う湯浅和洋さん。正確さと速さが自慢。下/徒歩配達担当の早川拓未さん。職員の藤田紀子さんと一緒に宛名とエリアを確認。

便配達をやることになったのは、地域の方が障がい者の社会参加にいいのでは、と勧められたからなんです。そう話すのは、「さくらんぼ」の会の大野健志理事。メイトさんと職員と一緒に取り組めるうえ、車の入れないエリアなら安全。また地域に根ざすことを大切にしてきたこの施設にとって、DM便の配達で地域の役に立てることは何よりうれしいことだったとか。平成16年、現在の半分のエリアからスタート。年々増える配達冊数は現在多い時で1日200〜300冊になることも。「ありがと」「くろうさま」。そんな言葉をかけても

らい、地域の人のつながりもぐつと密になっています。

迷路のようなまちで
間違えずに届ける工夫

かつてここは漁師町としてにぎわい、町並みもほほ昔のまま。家と家の間をくねくねとした細い道が入り組んで、まるで迷路です。古いまちなので、同じ姓や同じ番地の人が多く、

●名古屋主管支店 中川東起センター

面積5.12km²/人口32,061人/世帯数12,980世帯

●社会福祉法人 さくらんぼの会 多機能型「さくらんぼ」

2004年からクロネコメール便(DM便)配達を開始。1日配達冊数、約100冊。他の活動は、弁当や総菜、ラスク・お菓子の袋詰め製造・販売など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 324施設 従事者数 1,613人(2018年8月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達はクロネコDM便配達へと変わりました。



上／家々を確認しながら細い道を進む初谷孝雄さん。職員の東芳幸さんと板倉礼奈さんが、励ましながら付き添います。
左／配達歴10年になる早川拓未さん。付添いの職員 藤田さんが気分や体調を細かく気遣い、最後まで配達をやり遂げます。



上／外に出るのが好きな初谷孝雄さん。配達の仕事にやりがいを感じているとか。
下／数字が読める早川拓未さんはDM便を自分でしっかり見て、丁寧に投函します。



商店街の八百屋さんは、湯浅さんの担当エリアのお得意さま。DM便を届けながらの会話がモチベーションになっています。



“さくらんぼの会”大野健志理事(左)と佐々木健司係長。「障がいがあっても、労働者としてきちんと所得を得て、地域に貢献できる存在になる。それが、メイトさんをはじめとする利用者さんの生きがいや自信になります」。

仕分けが終わったら、配達に出発。
2人のメイトさんは職員と一緒に

メイトさんの体調を 最優先する

いつでもしっかりとしたサービスが提供できている。その実感がメイトさんたちの自信とやる気につながっています。

湯浅和洋さんは、仕分けから配達までを一人でこなす、自転車配達担当のベテランメイトさん。配達しながら、まちの変化もチェックし、新しい情報をいち早く施設に持って帰ってきてくれます。それを職員がすぐに地図に反映。情報の更新と共有は、配達品質を守るために欠かせません。

「ここでもっと早くとしたサービスが提供できている。その実感がメイトさんたちの自信とやる気につながっています。」

「さくらんぼの会」大野健志理事(左)と佐々木健司係長。「障がいがあっても、労働者としてきちんと所得を得て、地域に貢献できる存在になる。それが、メイトさんをはじめとする利用者さんの生きがいや自信になります」。

また、ヤマト運輸名古屋主管支店サービスセンター 大島秀浩センター長は「エリア的にも大変なこの地区の配達は、メイトさんはもちろんですが、職員の方々の意識の高さに支えられています。工夫があつて丁寧で、真摯に取り組まれているこちらの施設を紹介することで、名古屋をはじめ、中部地区におけるDM便

「このエリアは道が細くて一般車両が乗り入れできません。とはいえず、どこかに駐車して歩いて配達するのは大変です。まちを熟知している“さくらんぼ”だからこそ、安心しておまかせできる。むしろ、お願いできなかったら困ります」とも。

また、ヤマト運輸名古屋主管支店サービスセンター 大島秀浩センター長は「エリア的にも大変なこの地区の配達は、メイトさんはもちろんですが、職員の方々の意識の高さに支えられています。工夫があつて丁寧で、真摯に取り組まれているこちらの施設を紹介することで、名古屋をはじめ、中部地区におけるDM便

地域にも、ヤマト運輸にも、 なくてはならない役割

「DM便配達を始めて、メイトさんたちは体力が付き、活発に会話をするようになったと感じます」と語るのは職員の藤田紀子さん。「メイトさんの体調を守るために、日によっては、配達冊数や作業内容の調整が必要になります。それができるのはヤマト運輸さんとの信頼関係があつてこそ。メイトさんたちのことを理解してくれているので助かっています」。

座っている方左から／仲真悟さん、吉原直侃さん、丹村良和さん、職員 板倉礼奈さん
後列左から／ヤマト運輸中部支社 谷美沙貴さん、愛知主管支店 サービスセンター 宮下慎一郎品質指導長、さくらんぼ作業所 佐々木健司係長、職員 東芳幸さん、初谷孝雄さん、湯浅和洋さん、早川拓未さん、職員 藤田紀子さん、ヤマト運輸名古屋主管支店 名古屋中川東起支店 大橋甲支店長、サービスセンター 大島秀浩センター長



「“さくらんぼ”のメイトさんは、ヤマト運輸のクロネコメイト連絡会にも参加。ヤマト運輸と情報を共有しながら、配達品質の向上に励んでいます。」

DM便配達という仕事を通して地域に貢献し、地域とのつながりが深まっていることを、メイトさんたちが自身が日々実感しているようです。

配達のさらなる拡大につなげたい」と意気込みを語りました。

ファースト・ファシリティーズ・チャレンジド株式会社／三井不動産ファシリティーズの特例子会社として、オフィスビルの清掃・テナントサービス業務等を行っています。東京・大阪をあわせて26人の障がい者社員が働いています(2018年4月現在)



「純也、純也～」と人気者の藤田さん(右から2番目)と指導員のみなさん

エレベータホールの 仕事が好き!

「エレベータを利用するお客さまの、ためになる仕事だから」と藤田さん。この仕事に誇りを持っています。仲のいいメンバー達と今日も張り切って仕事に取り組んでいます!

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「当社は三井不動産ファシリティーズの特例子会社です。仕事の内容はビルの清掃を中心に、親会社のスタッフと一緒に、同じ仕事をしています」と取締役業務部長の酒井賢二さん。何ったのは、今年4月にスワン工舎羽田から就職した藤田純也さんが働く日本橋の三井ビルです。南北それぞれのタワーの5階から28階までのテナントフロア、本館を分担して、共有部分の廊下・階段・エレベータホール等、縦横無尽に清掃していきます。

「8時から16時30分までかなりタフな作業です。毎朝、仕事内容を①は南棟15階のエレベータホールのバキュームを何時から何時まで、②は“と具体的に伝えます。本人にも復唱してもらいその後、各担当の現場で仕事が始まります。藤田さんも頑張っていますよ」と、

社会で学び、成長する



エレベータホールの清掃に力が入ります

バキュームもリズミカルに楽しく

藤田 純也 さん ファースト・ファシリティーズ・チャレンジド株式会社(平成30年4月1日入社)
趣味は春夏の大学野球を観戦に行くこと。東大を応援するそうです。貯金してディズニーリゾートに行き、おみやげをたくさん買いたいと教えてくれました。

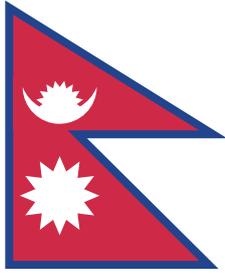
業務部指導員の谷元瑞香さん。
藤田さんの採用の決め手は「このチームのムードメーカーになるに違いない」と面接時に指導員の3人が思ったこと。メンバーだけでなく、親会社のスタッフからも気軽に声をかけられる人気者です。

じつは谷元さんをはじめ指導員のみなさんは障がいのある人たちに関わる仕事をしてきた経験者。特例子会社の2006年の立ち上げから約12年、ご苦労もあつたとのことですが、なにより藤田さんたちの成長がうれしいと話されます。「先日のことですが、トイレがあふれているとお客さまから連絡を受けたメンバーが現場を確認し、タオルを広げてお客さまがすべらないように対応し、『あとの処理をお願いしても良いですか』と電話をかけてくる。きちんとお客さまの対応ができて、今までできなかったことが突然できるようになるんです。本当に誇らしい瞬間です」。

酒井業務部長の「彼等は、社会に出て学ぶんです。学び・成長する」ということばの通り、日々学び、責任を持って仕事に取り組む藤田さんが一段と頼もしく見えました。



「会社の雰囲気を作っているのは間違いなくメンバー達、これが我が社の売りです!」と業務部長の酒井賢二さん(右)と指導員の谷元瑞香さん



ネパール小児白内障治療プロジェクト

ヤマトグループのみなさまから 多くの文房具をお贈りいただきました。 心からの善意に感謝いたします



子どもたちに「光」と共に届けます

8月1日から1カ月にわたるネパールの子どもたちへの文房具支援にご協力いただき、ありがとうございます。

ネパールの方達が働く主管・ベースから20箱を越える文房具をお送りいただきました。ボールペン、鉛筆、色鉛筆、クレヨン、ノート、手帳、消しゴム、折り紙等々、財団では、ネパールの子どもたちにお渡しできるよう、準備をしています。



ネパールの子どもたちに光を届ける活動を、ヤマト福祉財団はヒカリカナタ基金と共同で行います

いよいよアイキャンプ(眼科検診)を実施します

昨年12月に「ヒカリカナタ基金」と財団でカトマンズ郊外のダーディンで現地視察および現地医療チームと実施合意文書に調印しました(財団NewS57号参照)。

さまざまな準備を終え、いよいよ今年の12月9日にクレチョールの小学校、10日にジーバンプルの小学校で、視力検査や角膜・眼底検査を行うアイキャンプを実施します。検査により眼鏡や薬を提供したり、手術が必要な患者の対策などを無料で行います。

ネパールの方が働く職場には、ネパール語のポスターや、実施のお問い合わせカードを配布しています。ネパールに目の不自由なお子様がいたら、ぜひアイキャンプのことをお知らせください。

नेपाल बाल मोतिबिन्दु उपचार परियोजना

हामीलाई यहाँ देखि आखा शिविरको लागि सम्पर्क गर्नुहोस्

यामातो जनकल्याण संस्था



YWF TOPICS

障がい者助成事業

平成30年度奨学生の贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団は、障がいを乗り越えて社会で活躍することを旨とし、大学で学業に励んでいる学生の方に、月額5万円（返済不要）の奨学金を差し上げています。

本年は16名の奨学生が卒業し社会に飛び立ちました。58名の応募の中から新たに16名を決定。キャンパスにお伺いして贈呈式を行いました。



川里 茅礼さん
園田学園女子大学 人間健康学部総合健康学科2年



奈良場 春輝さん
筑波大学 人文・文化学群人文学類2年

障がい者の働く場パワーアップフォーラム 沖縄 キックオフ!

10月26日に開催します

2012年の開催から約6年半ぶりでのパワーアップフォーラムが沖縄で開催されます。働く障がい者の事業所が500カ所を越える沖縄で、3年間にわたりパワーアップフォーラムの活動を計画しています。1年目はテーマごとに活動し、沖縄で暮らす障がいのある人に役立つプランを考え、2年目ではプランの実行、3年目は結果を見極めながらさらに次のこと考えていきます。

「共に語ろう これからの10年!」、沖縄の事業所が自ら考え、深めていく地域型パワーアップフォーラムです。



実行委員会のみなさん「私たちが考えました!」

夢へのかけ橋 実践塾活動報告

夢へのかけ橋
プロジェクト

経済的な自立力を養った
新しい福祉に向かって

6月27日

「新堂塾（第3期）塾長視察」

仕事に向かう意識改革が重要。
働くことは人格を作ること。

6月27日、さをり織りやクッキー製造、受託作業をメインの事業としている（社福）白いキャンパス（熊本県人吉市）で塾長視察を行いました。塾生が悩んでいるのはさまざまな仕事を手がけても、収益が思うように上がらないことです。

「白いキャンパス」の職員も参加する講義の中で、塾長は施設での仕事を模索したこと、その中で利用者と保護者、職員の意識改革が進んで仕事に向き合う姿勢ができてきたこと、その結果、仕事が増え売上が伸びてきたと話します。

同行した東京学芸大学の菅野教授は、利用者の給料が3万円になるまでは施設で働く職員の責任。3万円の仕事をできるようになった利用者は誇りを持つようになること、働くことは人格を作ることとアドバイスします。塾生施設では営業チラシの作成や作業時の服装など、仕事場づくりに早速取り組んでいます。



切り干し大根の袋詰めを行う受託作業班（写真左）。施設職員も参加して、見学の振り返りと新堂塾長・菅野教授の講義を行いました

8月30・31日

「楠元塾（第2期）第2回見学勉強会」

作業場を快適に。

衛生管理の基本は5S、その先は7Sで消毒と洗浄も。

8月30・31日、楠元塾では（社福）ハヶ岳名水会「のはら楽団」（山梨県北杜市）と（NPO）レスパイトケアはちもり「森のこびと」（長野県東筑摩郡朝日村）を訪問し第2回見学勉強会を行いました。

お弁当事業を始めることで楠元塾に入塾した「のはら楽団」。立派な設備が整った作業場で利用者さんが働いています。楠元塾長は4列の配膳を2列で配膳することにより、スピードアップすることを指摘。利用者さんの体調を気遣う声かけだけでなく、作業を進展させるためには明確な指示も必要と話します。

「森のこびと」のお弁当づくりの作業場はすみずみまで5Sが行き届き、狭い作業場を効率良く動く姿に塾長も感心しきりです。人口の少ない同村でも高齢者の割合は多いので刻み食やとろみ食など高齢者食のお弁当技術を持つように指導。衛生管理をさらに徹底するために手洗い器の自動化を提案、HACCPにも対応するために5Sプラス消毒、洗浄の7Sを実践するようにアドバイスしました。



4列の盛り付けを2列にすることでスピードアップ（のはら楽団）
狭い空間での無駄のない動きに塾長も感心しました（森のこびと）

YWF TOPICS

ヤマトグループ企業労働組合連合会より6221万7000円のご寄付をいただきました
みなさまの善意を有効に使わせていただきます



9月13・14日、ヤマト運輸労働組合の第73回定期中央大会が湯沢カルチャーセンター（新潟県南魚沼郡）で開催され、その中で「夏のカンパ」の贈呈式が行われました。夏のカンパは1987年からスタートし今年で31回目となります。

ヤマトグループの社員・組合員、関係者様各位の善意から、今年は6221万7000円の多大なるご寄付をいただきました。

ヤマト労連の森下会長から、カンパの目録を受け取った、財団の瀬戸理事長は、「今年も、心からの善意をありがとうございます。たくさんのご寄付で、多くの障がい者事業所へ助成金をお贈りすることができています。

助成で、事業の機械化をしたり、設備を新しく整備され、そこで働く障がい者のみなさんのお給料がアップしています。また、障がい者の奨学金については、一般社会に出て、障がいをクリアし社会のために働いてくれる卒業生が多くなってきました。今年の12月にはネパールの山奥で目の悪い子どもたちの治療・手術を無料で行うプロジェクトもスタートします。

みなさんが、汗水垂らして、ひねり出していたご寄付を障がい者の自立に向けての資金として、しっかりと効率の良い使い方をしていきたいと思えます。ありがとうございました」と、お礼のことばを締めくくりました。

音楽宅急便アウトリーチ・コンサートin小郡 はじめての特別支援学校出張コンサートに生徒たちの感動アンコール

ヤマトホールディングスが主催する、音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」が9月10日、福岡県立小郡特別支援学校で開催されました。指揮者の飯森範親氏をはじめ司会の朝岡聡氏、九州交響楽団14名が特別支援学校に出張してのコンサート。特別支援学校での開催は音楽宅急便33年目にしてはじめてのことです。

体育館に集まったのは生徒、先生を含め約250名。車椅子を利用している生徒は全身でリズムを取っています。指揮者体験コーナーでは、ハンガリー舞曲第5番を、中学部、高等部から代表がタクトを振って拍手大喝采。コンサートの最後は、期せずして生徒からのアンコールの大合唱です。

「彼らの感性は素晴らしい、彼らに音楽が直接伝わるのがわかって、私もグッときました」と指揮者の飯森氏も興奮されていました。



見事なタクトを披露し、会場から拍手喝采



身体全体でリズムをとって

フェルメール展

Making the Difference: Vermeer and Dutch Art



ヨハネス・フェルメール《牛乳を注ぐ女》1658-1660年頃
アムステルダム国立美術館 Rijksmuseum. Purchased with the support of the Vereniging Rembrandt, 1908 **RIJKS MUSEUM**



ヨハネス・フェルメール《赤い帽子の娘》1665-1666年頃
ワシントン・ナショナル・ギャラリー National Gallery of Art, Washington, Andrew W. Mellon Collection, 1937.1.53
※12月20日(木)まで展示



ヨハネス・フェルメール《ワイングラス》1661-1662年頃
ベルリン国立美術館 © Staatliche Museen zu Berlin, Gemäldegalerie / Jörg P. Anders

日本美術展史上、最大の「フェルメール展」

オランダ絵画黄金時代の巨匠、ヨハネス・フェルメール(1632~1675)は国内外で不動の人気を誇っています。寡作でも知られ、現存する作品はわずか35点とも。今回は、そのうち9点までが東京にやってくる日本美術展史上最大の「フェルメール展」です。

「光の魔術師」とも称されるフェルメール。ミステリアスな緊張感をたたえた静謐な空間、光の粒子までもを捉えた独特な質感を特徴として世界屈指の人気を誇ります。しかし、熱狂ぶりが始まったのは、実は近年になってのこと。世界的なブームは、1995~96年に米国ワシントンとオランダのデン・ハーグで開かれた「フェルメール展」に端を発します。

世界的ブームを追い風に、2000年、日本で初のフェルメール展が大阪で開かれ、約3カ月の会期で60万人もの動員を果たしました。

「フェルメール・ルーム」

来日するフェルメール作品は、ひとつの部屋「フェルメール・ルーム」に飾られます。それは、フェルメール本人も目にしたことのないであろう奇跡の光景です。キャリアのほぼ全段階から選ばれた傑作の数々は、彼の芸術表現の幅広さと豊かさを示してくれることでしょう。「ワイングラス」「赤い帽子の娘」など、日本初公開作品も含まれています。是非この光景をお楽しみください。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

DATA

- 開催期間 ▶ 2018年10月5日(金)~2019年2月3日(日)
※会期中、一部作品の展示替えがあります
※日時指定入場制
- 休館日 ▶ 12月13日(木)
- 開催場所 ▶ 上野の森美術館
- アクセス ▶ ■JR上野駅公園口より徒歩3分
■東京メトロ・京成電鉄 上野駅より徒歩5分
※駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください
- 開館時間 ▶ 9:30~20:30
※最終入館は20:00まで
※開館・閉館時間が異なる日があります

観覧料 ▶	一般	大学・高校生	中学・小学生
前売日時指定	2,500円	1,800円	1,000円

※当日日時指定券は、前売日時指定券の販売に余裕があった入場時間枠のみ販売します
※団体割引、高齢者割引はありません
※障がい者手帳をお持ちの方とお付き添いの方1名まで割引があります
右記インフォメーションダイヤル(オペレーター対応 10:00~18:00/会期中9:00~20:00)へお問い合わせください

来場時、障がい者手帳をご持参ください

※未就学児は無料です
※本来場者全員に音声ガイドを無料で提供します

主催 ▶ 産経新聞社/フジテレビジョン/博報堂DYメディアパートナーズ/上野の森美術館

後援 ▶ オランダ王国大使館

企画 ▶ 財団ハタステフティング

特別協賛 ▶ 大和ハウス工業株式会社 ノーリツ鋼機株式会社

協賛 ▶ 第一生命グループ/株式会社リコー

特別協力 ▶ NISSHA株式会社

協力 ▶ ANA / KLMオランダ航空/日本貨物航空/ヤマト

グローバルロジスティクスジャパン

総合監修 ▶ アーサー・KウィロックJr.

(元ワシントン・ナショナル・ギャラリー学芸員)

日本副監修 ▶ 千足伸行(成城大学名誉教授 広島県立美術館長)

問い合わせ先 ▶ インフォメーションダイヤル

0570-008-035(オペレーター対応: 10:00~18:00)

/会期中9:00~20:00)

公式サイト: www.vermeer.jp/

巡回情報 ▶ 大阪会場(大阪市立美術館)

2019年2月16日~5月12日

※東京展と一部展示が異なります

ハッピーなクリスマスはスワンのケーキで

今年も8種類のハッピーなスワンクリスマスケーキが勢ぞろい。大人気のモンブラン、雪のようなラ・ネージュ、贅沢チョコのハッピーSTARなどなど。迷ったら選べる楽しさのア・ラ・カルトやいつものショートもあります。ハッピーなクリスマスはハッピーなスワンのケーキでどうぞ。

お申し込み 11月1日(木)~12月5日(水)
お届け日 12月20日(木)~12月24日(月)
○障がい者施設からもご予約いただけます。

お問い合わせ

☎ 0120-230-787

スワンバーカリー

